

【修士論文要旨】

名古屋市北部近郊における旧字およびその領域の維持 —各旧字の諸条件との関係に注目して—

坪 井 宏 晃*

本研究は、愛知県旧西春日井郡の旧師勝町（現・北名古屋市の一部）、豊山町、旧山田村（現・名古屋市西区の一部）および旧新川町（現・清須市の一部）の一带において（図1）、昭和初期の時点における旧字の名称や領域が現行地区へとどの程度維持されているのか把握することを目的とした。さらに、それらの維持に各旧字がもっていた地形的条件、旧字内における集落の有無、条里遺構の有無などといった諸条件がどのように関わっているのか明らかにすることも目指



図1 研究対象地域の位置関係

（1999年修正1：200,000地勢図「名古屋」に加筆）

*国際人間学研究科歴史学・地理学専攻 博士前期課程

した。そのために本研究では、この地域で昭和初期に多く作製された地籍図面集である『土地宝典』（図2）を活用し、画像ファイル化した現行1：10,000地形図上に描画ソフトを用いて、同じく画像ファイル化した『土地宝典』の図面を重ね合わせて旧字域などを正確に復元するとともに（図3）、旧字と現行地区の面積概算を行った。そして、旧字域と現行地区域とがどの程度重複しているのかを明示するために、両者が重複している面積を割合として算出するなどした。その上で、各旧字がもっていた諸条件が、その名称および領域の維持に、それぞれどの程度関わっていたのかを分析した。

そして分析の結果、かつての旧字の名称は何らかの形で現行地区名へと少なからず引き継がれているものの、旧字名を何らかの形で引き継いでいる現行地区の領域は旧字域よりも拡大しやすくなっており、さらに、旧字と現行地区との位置や範囲が大きくずれているケースがみられることも明らかとなった。

具体的には、旧字がもっていた諸条件のうち、旧字名の残存に非常に強く関わっていたのは地形的条件と、その影響を大きく受ける集落の有無であった。とくに自然堤防に該当しており、かつ、その範囲内に集落を多く含んでいた旧字においては、比較的高い割合で、その名称が何らかの形



図2 『土地宝典』の例
（『豊山村土地宝典』より抜粋）（破線が旧字界）



図3 土地宝典より復元した旧字の境界線と現行地区の境界線

(一部抜粋、緑の地名・線は土地宝典記載の旧字名とその境界線、赤は現行地区の境界線)

(1988年編集 2006年修正 1:10,000 地形図「楠」に加筆)

で現行地区名へと引き継がれていた。一方で、かつて低地に該当していた旧字、あるいは、自然堤防に該当していたとしてもその範囲内に集落を含んでいなかった旧字については、その名称が現行地区名へと引き継がれにくくなっていた。そして、旧字名の残存については、旧町村ごとによる対応の違いも強く関わっていたことが指摘された。例えば、旧字名の半数以上が現行地区名へと引き継がれていた旧師勝町と旧新川町では、旧大字名と旧字名を組み合わせた連称化の形を現行地区名として採用しており、また豊山町では、かつての大字と字の体系を残したまま、旧字名を現行地区名へと転用していた。この3町に対して旧山田村では、連称化も採用されず、旧大字と旧字の体系も残されなかったためか、旧字名の残存数が旧4町村の中では最も低くなっていた。また旧山田村において、旧字名がそのまま現行地区名へと引き継がれにくかったのは、区画整理などによって旧字から現行地区へとその領域が大きく変更されたためであることも想定された。

こうした旧字の名称の残存に対して、旧字の領域の維持については、地形的条件に優先して、旧字の範囲内における集落の存在が最も強く関わっていたといえた。とくに、その範囲内に集落を多く含んでおり、かつ、自然堤防に該当していた旧字においては、その字域が現行地区域へと

非常によく引き継がれ、旧字域と現行地区域との重複していたところもみられやすかった。さらに、集落を含んでいることがあまりなかった低地に該当していた旧字について、旧字域と現行地区域との重複がよくみられたことも、集落の存在が地形的条件に優先していると考えられる根拠である。また、旧字域の維持についても、各旧町村による対応の違いが強く関わっていることが指摘された。例えば旧山田村では、現行地区との面積比較が可能であった旧字は非常に少なかったものの、その旧字のうち、旧字域と現行地区域との位置や範囲がよく重複していたところは半数ほどを占めていた。そして旧新川町については、旧字域と現行地区域とが重複していたところは多くみられたものの、旧字と対応する現行地区の領域は縮小していたところのほうが、拡大していたところよりもわずかに上回っていた。なお、諸条件のうち、条里遺構の有無について、本研究における分析の中では、旧字名や領域の維持に対して大きく関わっているとはいえなかった。

以上のような分析結果から、旧字名の残存および旧字域の維持に対しては、旧字の範囲内に集落を含んでいたことが最も強くはたらいっていたことを強調したい。これらの集落を含んでいた旧字については、『土地宝典』を用いての旧字域の復元作業の際にも、昭和初期の時点における街路と現在のそれとが一致しやすく、作業を容易に進めることができた。こうした作業場のプロセスにおいて明らかになったことも、本研究における成果の1つといえるであろう。